【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成20年10月2日(2008.10.2)

【公表番号】特表2008-511145(P2008-511145A)
【公表日】平成20年4月10日(2008.4.10)
【年通号数】公開・登録公報2008-014
【出願番号】特願2007-528822(P2007-528822)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｆ　6/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｆ　5/08　ＺＡＡＣ
Ｈ０１Ｆ　5/08　Ｂ
Ｈ０１Ｆ　5/08　Ｄ

【手続補正書】
【提出日】平成20年8月7日(2008.8.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
帯状超電導体からなる複数の並置された巻線を有する長方形コイルであって、この超電導体が、常電導母材中に埋め込まれた高T_C超電導体材料からなる少なくとも１つのコアを含むものにおいて、
帯状超電導体がその外面に酸化物材料からなる製造に起因する不純物を有し、
長方形コイルの隣接する巻線の間に主として酸化不純物により帯状超電導体の外面に生じる少なくとも１０μΩの接触抵抗が設けられる、
ことを特徴とする長方形コイル。
【請求項２】
帯状超電導体（６ｊ）が少なくとも片側に、製造に起因した酸化物材料からなる不純物を有することを特徴とする請求項１記載の長方形コイル。
【請求項３】
酸化物材料がAl_2O_3であることを特徴とする請求項２記載の長方形コイル。
【請求項４】
長方形コイルの巻線が硬化性樹脂により保持されていることを特徴とする請求項１から３のいずれか１つに記載の長方形コイル。
【請求項５】
１０Ｗの最大損失電力と少なくとも１００ｍΩの分路抵抗とを有することを特徴とする請求項１から４のいずれか１つに記載の長方形コイル。
【請求項６】
隣接する巻線（５ｊ）の間の少なくとも２０μΩの接触抵抗を有することを特徴とする請求項１から５のいずれか１つに記載の長方形コイル。
【請求項７】
電気機械の一部として形成されることを特徴とする請求項１から６のいずれか１つに記載の長方形コイル。
【請求項８】
加速器またはＭＲ装置の磁石の一部として形成されることを特徴とする請求項１から６

のいずれか１つに記載の長方形コイル。
【請求項９】
帯状超電導体からなる複数の巻線を有し、超電導体が、常電導母材中に埋め込まれた高T_C超電導体材料からなる少なくとも１つのコアを含み、その外面に酸化物材料からなる製造上に起因する不純物を有する長方形コイルの製造方法において、
超電導体を樹脂で含浸し、
含浸された超電導体を長方形コイルに加工し、
長方形コイルの隣接する巻線の間に主として酸化不純物により帯状超電導体の外面に生じる少なくとも１０μΩの接触抵抗を設ける
ことを特徴とする長方形コイルの製造方法。